



# 三浦綾子記念文学館と外国樹種見本林 ～三浦文学がつないだ市民が守り育てる森～



「北海道は私の文学の根っこ」と語り、35年にわたって書き続けてきた作家・三浦綾子の“聖地”と言えるのが外国樹種見本林。代表作・デビュー作『氷点』の舞台である。ここに建つ三浦綾子記念文学館は市民運動で生まれ、歩みを続けてきた。2018年9月には、「口述筆記の書齋」を擁する分館も建ち、旭川駅から「氷点通」「氷点橋」「三浦綾子文学の道」を経て見本林へと続く道は、“三浦文学ワールド”と呼ぶにふさわしい。市民が守り育てる文学と森は、氷点のまち・旭川を象徴する癒しと憩いのスポットである。